



2009年10月

将来的なマラリア感染対策としての応用に期待

大幸薬品が『二酸化塩素スプレー』の蚊に対する忌避作用について共同発表

～2009年10月17日、『日本衛生動物学会東日本支部会』にて発表～

大幸薬品株式会社（本社：大阪府吹田市内本町三丁目34番14号、代表取締役社長：柴田 仁）は、自治医科大学 医動物学 松岡裕之教授と共同研究を行い、2009年10月17日に東京で開催された「日本衛生動物学会東日本支部会」（主催：日本衛生動物学会）にて「二酸化塩素スプレーの蚊に対する忌避作用について」という演題で、二酸化塩素スプレーがハマダラカに対し、忌避作用とマラリアの発症率について共同発表しました。

この発表の内容は、可溶化した二酸化塩素（ClO₂）をスプレーしたマウス群と、水（H₂O）をスプレーしたマウス群に対するハマダラカ（ハマダラカには事前にネズミマラリアを感染させておいた）の吸血行動を比較実験したところ、二酸化塩素をスプレーしたマウス群は水をスプレーしたマウス群に比べ、吸血したハマダラカ数の有意な減少を記録し（P<0.05）、マラリア発症マウスが有意に少なかった（P<0.05）というものです。

具体的には、水をスプレーしたマウスに対するハマダラカの吸血率が47.7%でマラリア発症率は54.5%であったのに対して、二酸化塩素をスプレーしたマウスに対するハマダラカの吸血率は5.9%でマラリア発症率は7.7%とかなり減少しました。（※実験の詳細は、別紙の発表要旨参照。）

当社は、感染管理事業として、医薬品事業で培った基礎研究や応用研究開発力を活かした、製品の企画・開発・販売を行ってきました。その事業の中心として、人体に対する毒性が低く、抗ウイルスおよび抗殺菌作用を有する物質である二酸化塩素（ClO₂）の研究及び製品化を積極的に進めてまいりました。今回の発表は、この二酸化塩素スプレーが蚊に対する忌避作用を持っているのではないかと考え、実験を行った結果判明したものです。今回の実験結果は、将来的に、マラリア感染対策としての応用が期待されています。